

# 陽の里

発行 平成27年1月1日



社会福祉法人 新生会  
総合ケアセンター サンビレッジ  
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地  
TEL (0585) 45-5545(代)  
URL <http://www.sun-village.jp/>

## No.122

### テーマ 「三位一体 研究事業」



▶三位一体・研究事業会議

新年あけまして

おめでと〜ございませす

皆様にはお健やかに新しい年を

お迎えのこととお慶び申し上げます



社会福祉法人 新生会

名誉理事長

石原美智子

介護保険が始まって既に10年以上が過ぎました。介護保険のお蔭でどれだけの人々が救われたことでしょう。ただ、介護とはどのようなことをいうのかは必ずしも国民の一致した概念になっていません。

公共事業で収益が得られるからと参入する事業者も多くなり、国も悪徳事業者を締め出すために制度で何とかいい方向へ誘導しようとしているのかもしれませんが、制度が煩雑になり混乱している事業者も多い現状です。事業者が制度ばかりに目を向けて、肝心の利用者を見るのを忘れては大変です。

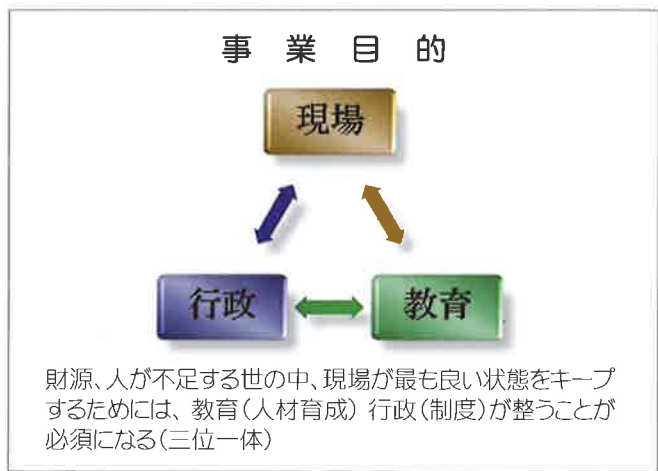
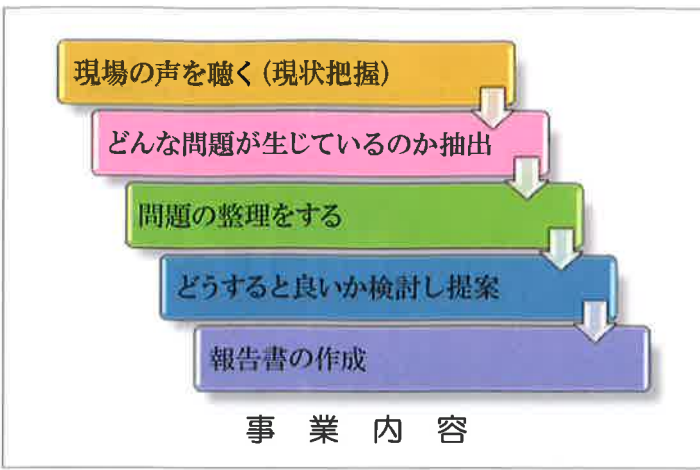
そこで、利用者のアセスメントをし、それを基にしたケアプランをチームで介護するために必要な教育の在り方、そのための制度がどのようであったらいいかを提言しようとするのが三位一体研究会です。乞う、ご期待!!



# 「三位一体研究事業」発足

サンビレッジ岐阜 管理者 川瀬由起子

介護保険制度が発足して、間もなく15年目を迎えようとしています。その間、新たなサービスや加算等も制度化され、当初「走りながら創り上げる介護保険制度」は、常に変化し続けています。反面、その変化に追われるようにハードの整備や人員確保に奔



走っているのが現状です。また制度そのものが複雑化しており、現場実践者があるべき姿を目指して実践していくには、何をどうしていくことが望まれるのか、手探りの状態が続いているようにも思えます。そして、人員の確保、人材育成に日々悩んでいるように思えるのです。

そこで、財源や人が不足する世の中、介護現場が最も良い状態(利用者もそこで働くスタッフも尊厳が守られる)をキープするためには、現場の声に耳を傾け、現場を分析すると同時に、その現場を担う人材の育成(教育)と現場の遂行を基盤化する制度(行政)が並行して整うことが求められます。

まさに「現場」「教育」「行政」が三位一体となって取り組む必要性があると考えます。そこで、本研究会では、現場、教育、行政の関係者が集まり、左記のように研究会を進めていく方針です。

- ① 現場実践における様々な課題を抽出する
- ② 本来、どうあるべきなのか、意見を出し合う
- ③ その為に、どのような解決手段があるか模索する
- ④ そのことを一般化していく為の制度としての在り方を検討する

⑤さらに、教育課程としてはどんな仕掛けが必要なのかまとめる

このように幅広く議論しながら、来たる少子高齢社会における生活支援の在り方を深める会を進めていきたいと考えています。



今回、この三位一体研究事業を発足、運営するにあたり、普段の仕事から見えにくい存在の行政、教育に視野を広げることは、研究事業に関わる職員にとっても、有意義な場となることを期待しています。

# 岐阜シティ・タワー 孤食からふれあい食堂へ

サンビレッジ岐阜 日比野 始

平成二十六年四月一日より、シティータワー3階の福祉エリアとその上層階の住人の食事はサンビレッジ・フーズが担うことになり、新たに厨房をタワー3階のエリアに建設いたします。完成するまでの期間は瑞穂フーズから調理したものを「配食サービス」としてお届けすることになりました。

こちらに住まわれている方達の食生活は自炊している人やスーパーなどの惣菜で簡単に済ませている人が多いことを知り、フーズとして何が出来るだろうと考えました。一人または夫婦二人での食事は、好きなものに偏った食生活になりがちです。また「孤食(ひとりの食事)」が認知症を進行させるという事例もあります。食事サービスを提供する役割としてバランスの取れた食事提供が必

要ですし、新生会の福祉の理念からも認知症予防が求められます。単に食事の提供だけではない岐阜オリジナルの食事の提供を模索した結果、住人の方達が安心して集える『食堂』を目指すことになりました。食堂は、共有場所である「ふれあいあるーむ」を食事の時間帯のみ使用することで住人の皆さんの理解を得ることができました。



▲配食サービスの訪問で嗜好を伺います

食堂をオープンするまでの間は「配食サービス」を提供してありますが、安否確認と皆さんとのコミュニケーションを大切にお配りしています。利用される住人へ毎日食事を届けるうちに「おいしいよ」「使っている素材が断然良いし、野菜中心のメニューでとっても嬉しいよ」等とご意見を頂けるようになりました。また、サンビレッジ岐阜の介護スタッフや看護師など他職種からも「配食サービスを部屋の中まで届けることによってその人の暮らしや違った一面が分かり、新たな発見がある!」と私達と一緒に

積極的に配食を担って頂けております。現在は「配食時の些細な会話が嬉しい」「その日によって来る人が違うのも楽しみ」と新生会の配食サービスを受け入れて頂いていると実感している毎日を送りながら、新体制に向けて準備をしております。

▲ふれあいルームをふれあい食堂として活用します



▲ふれあいルームをふれあい食堂として活用します



vol.8

# 「サンビ校」から学ぶ

## 「共生」から学ぶ

もやいの家市橋 小谷友子

もやいの家市橋は民家改修型の事業所で、1階は小規模多機能型居宅介護、2階は知的障がい者を対象としたグループホームとなっています。もやいの家市橋に配属になり、働き始めて早3年が過ぎました。働き始めた当初は全てが初めてで戸惑う事ばかりでした。もやいの家市橋の特徴は「共生」＝「共に生きる」ことです。分け隔てなく地域で暮らしていく。尊厳を守りながら暮らしていく。3年前の私は今まで関わりが全くなかった方々との関わりに随分悩み、自分には向いていないのかなと挫折しそうになった事もありました。そんな時、周りのスタッフから助けられ、一緒に悩む事で、個々の障がいに向き合うことが出来る様になりました。

障がいに伴い確かに一人では適切な判断や行動が難しい事もあります。が、さりげないサポートがあれば普通に暮らしていける。そのさりげないサポートが私達の専門性であり、地域の架け橋に必要な事だと日々実感しています。

私を含め、誰もが障がいをもったり、或いは家族や身内がその様な状況になる事も決してゼロではありません。この仕事に就いてお互いを知ると言う事の大切さを実感しました。

お互いが関わり合う事を通じて、可能な限り地域で助け合いながら暮らしていけるそんな「共生」が広がって行く事を夢みてこれからも地域と共に歩んでいきたいと思えます。



外食へ出かける相談をしています

## トピックス

### ～収穫祭 & 陽の里まつり～

10月18日にサンビ校で学校祭「陽の里まつり」を開催しました。今年は学生企画の模擬店・イベントに加え、教員企画のミニ講座が加わり「遊び」と「学び」の二本立てとなりました。小さな子供からお年寄りまで400人程の方々が来校され、この方々に「池田町にサンビ校在り！」とアピールできた実感しています。同日にリハビリセンター白鳥で「収穫祭」も行われており、両者の連携がとれるよう、スケジュールの調整やバスの運行など工夫をしました。

今年は、「サンビ校を知ってほしい」という思いから広報にも力を入れました。小学校を訪問し呼びかけたところ、箸の自助具作りに興味を示し、子供達の福祉へ関心の高さに驚きました。当日は、特に模擬店・体験コーナーは会場を埋め尽くす程の人で、中でも、ひびき太鼓、けん玉教室、箸の自助具作り、坂内の猪汁は大盛況でした。模擬店担当の私は朝から接客、調理、配達と奔走し、昼前に追加をお願いした程です。昨年より大規模のまつりとなり、とても充実した時間を過ごす事ができました。来年も、より素晴らしいものとなるように一丸となって取り組んでいきたいです。同級生や先生方、地域の方に支えられ感謝すると共に、私自身も成長させて頂き、素晴らしい陽の里まつりとなりました。

言語聴覚学科2年 赤尾祐介



400人程の方々が来て下さり、とてもにぎやかでした。

**編集後記**..... 新年あけましておめでとうございます。どんなお正月をお迎えでしょうか？

池田地区の施設には毎年池田町白鳥の伝統的白鳥神楽の皆さんが来苑して頂け、賑やかでしかも懐かしい催しの中で新年を迎えております。どのご利用者の方も毎年とても楽しみにしておられ、満面の笑みです。いつまでも伝統的文化を引き継ぎ、守っていけるといいですね。今年皆様に素敵な情報を伝えられるように頑張ります。

